2023 年 6 月 26 日

学校法人三幸学園
札幌スイーツ＆カフェ専門学校
校長　工藤　高司　殿

学校関係者評価委員会
委員長　古野　生真

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　古野　生真　（ファー・イースト・イーティング株式会社）
②　柳　雄太郎　（飛鳥未来きずな高等学校札幌キャンパス　キャンパス長）
③　髙橋　憂希　（第 9 期卒業生）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2023 年 6 月 26 日（会場　札幌スイーツアンドカフェ専門学校　502 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度　学校法人　三幸学園　札幌スイーツ＆カフェ専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　吉田　裕美
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　古野　生真

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツと・カフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツ・カフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する（全ては、お客様の笑顔とありがとうのために）人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①　前年度重点施策振り返り
・退学率（2 学年合計の退学率を 5%以下を目標とする）
　→2021年度退学率 7.2%の内、「精神的疾患」「目標喪失」「人間関係」という理由の割合が高かった為、
　以下の施策を立て実行した。結果的に 2022 年度は退学率を 10.1%まで数字が悪化した。
ア）様々な事情を抱えた生徒も多くいるため、「学生サポートルーム」の活用促し、担任・副担任制度や、Google チャットを活用し、教員へ相談し易い環境づくりを前年度より充実させた。
イ）目標喪失を防ぐために、一人一人がいろいろな視点で目標やゴールを見定められるように任意イベントを含めて様々な取り組みを創出した。（特別ゼミ、産学連携、姉妹校プレゼント、お店見学、
ウ）実習時の人間関係をよりよく構築していくために、実習時の関わり方についての振り返る機会を設けて、今後の関わり方についてより良くなるよう、考えるきっかけやアドバイスできる機会を設けた。

②　学校関係者評価委員会コメント
・古野委員
　現場では器用では無い子には頼りになる担当の人をつけて指導することが多くフォロー体制の強化をしている
　現場でも私生活がなっていない従業員は保護者様を呼んでお話する。
　個を重視した若い方が増えているので、組織としての考えを徹底して伝えていくとよい。
・髙橋委員
　想像と入学してからの生活にギャップを感じる人が多かったので何かしらのフォローができるとよい。
・柳委員
　高校は特に保護者との連絡を綿密に行う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想

業界のニーズは目まぐるしく変化している為、現状の業界動向・社会経済のニーズを把握し、将来構想を抱く必要がある。

② 今後の改善方策

・就職先や実習先の企業訪問を通して接点を増やすことで各企業の抱えている課題やニーズにおける動向を把握する機会を設ける。

・外部との産学連携の機会を積極的に設け、積極的に外部の方との連携を図っていく。

・全ての職員を対象とした業界関係者による講話機会を増やす。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・古野委員長

若い人材は少なくなっているので貴重な存在になっており、就職先の選択肢は増えている。
機械化が現場では進んでいるので、機械を使いこなす知識・応用力のある人材が求められており、学校で機械の授業を入れていくと良いのではないか。
料理人も原価計算などの数字を管理できるスキルが必要になっている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報のシステム化による業務の効率化

会議システムの導入を行ったことにより、全国の姉妹校との WEB 会議を行う等、業務の効率は図れている。学生管理や職員管理なども情報システム化により効率化されている。

しかしながら、授業はオンラインではなく対面に一律実施とコロナ禍前に戻った。コロナ禍で活用した便利なアプリを定着させられるかが課題と感じる。

② 今後の改善方策

・情報システム化に伴い、意識改革が重要である。蓄積された情報や経験から、より業務の効率化を図ると同時に主体的に業務のスリム化を図っていくことが必要である。特に恒常化されている業務においては、必要業務なのか精査し、環境導入だけではなく使いこなす知識・技術を習得するための研修を実施していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・柳委員

現高校 2 年生から1人1台タブレットを使った授業が展開されている世代となっているため、今後は情報システムに慣れている入学生が増えていく可能性がある。（課題・提出物などはデータでのやり取りが多い）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4

関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・職員の能力開発のための研修

実技系の授業を持っている職員の能力開発のための研修は定期的に行われているが、デジタルを活用した考え方や効率アップに向けた方法などの研修が必要だと考える。

② 今後の改善方策

・教員がお互い学びあう環境のため授業見学をしあえる環境を設けるなど、教員同士で学びあう機会の創出。

・教科会や全教職員が集まる全体会議などで好事例の共有する機会の創出。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・柳委員

高校では札幌市教育委員会に研修で来ていただき、札幌の教育状況を知る機会を作っている。

（4）学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・就職率は2021年度と比較しても大幅に改善が見込まれた結果となった。ただ、内定先としてはまだまだ改善の余地があると考える。全員が就職先も含めて幅広く選択できるようにすることが今後の課題と考える。

・資格取得率向上に向けてまだ改善の余地がある。

・退学率低減に向け個別指導など対策を講じ、結果としては悪化したため課題が多く残る結果となった。

・卒業生を在校生や進学予定の高校生と関わる機会を設けるなどできることがまだある。

② 今後の改善方策

・企業説明会の機会を多く設け、希望業種の絞り込みなど早期に動き始められる環境の確立。

・資格取得に対する意識付け方法の統一や対策期間の取り組みの確立。

・カウンセラーとの連携強化によるいろいろな事情を抱えた生徒への対応。
・グループ担任体制の確立と教員陣の役割のすみ分けと生徒の相談しやすい環境づくりの確立。
・生涯メールアドレスの活用による卒業後の学校への相談や学校側からの依頼等について卒業前に伝達。

③ 特記事項
・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント
・古野委員長
たくさんの現場を見る機会を増やすと、生徒の視野も広がり自分に最適な就職先を見つけられると考えるため、１日でも見学に行く機会を企業と連携して作っていくといいのではないか。
・髙橋委員
学生時代の就職活動で良かったことは、内定が決まるまで担任や実習など様々な先生から後押しをもらえたことで、自分事として捉え積極的に行動できた。
自分の特性を先生方からたくさん聞けたことで、最良な就職先を選ぶことができた
面接練習を１度ではなく、何度もできる機会をもっと作ってもらえると良かったかもしれない。
若い人材を大切にする企業が残っていくと思うので、企業にもっと学校からご依頼することを増やしていいのではないか。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題
・就職に対する支援
企業説明会の実施や Google classroom（オンライン学習システム）を通して就職情報を紹介する支援体制は徐々に整備出来てはいるが、生徒が前向きに動き出す為の仕組みづくりにはまだ改善の余地がある。
・卒業後に関して就職未決定の卒業生や申し出のある生徒には支援を実施しているが、それ以外の卒業生には支援がまだ不十分である。

・中途退学者への支援体制について、現状は有効な対策が実施できていない。

② 今後の改善方策

・Google classroom、SankoLink（学園公式 LINE）を中心とした情報共有方法の確立。

→卒業生が働いている企業先のアルバイト求人情報を学校へ共有するなど、学校側からの発信だけではなく、双方向のやり取りができる仕組みづくり。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

（6）教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・有給企業インターン実習から内定に繋がる事例など取り組みとしての成果をあげられている。しかし一部生徒の有給企業インターン先との関わり方や学校側の企業の紹介方法など改善の余地がある。

・コロナ禍により海外研修は実施されていない。

② 今後の改善方策

・有給企業インターンを望むにあたっての動機付けや企業との連携を強め、繋がりを広げていく。

・2023年度より海外研修を再開する予定。

③ 特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・産学連携でのボランティア活動は幅広く実施できており、また授業の一環として実施される店舗販売において地域貢献出来ている。

・中学生向け講座も積極的に受け入れており、進路探求オリエンテーリング等を行っている。

② 今後の改善方策

・引き続き状況を見極めながら可能な限り取り組み、社会に貢献できる学校を目指していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

この業界に興味を持って入学した生徒たちが志を持ち続けながら現場で活躍できるよう、昨年度は主に就職率を上げることと退学者を防ぐこと、コロナ禍という時代背景があるため、産学連携など行事以外の取り組みを増やし、生徒が活躍できる場を増やすなどの施策を実施した。

この学校関係者評価委員会で頂いた意見を基に、現場のニーズを知る機会を増やし、それを生徒に伝達することで早い職業観の醸成、またその就職先で貢献できるよう基本的な技術を身に着けるための教員間の指導技術統一を今まで以上に意識し、次年度の計画に繋げていく。

今後も、更により良い教育を提供できる学校であり続けたいと考えている。